

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	長 野
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富士見町立 富士見高原中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	1	11	24
生徒数	116	128	119	5	368	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、できた喜びを味わえるようにする学習指導
--------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数・負の数などの基礎基本を学ぶ学年であり、学習内容を定着させる必要があるため。</li> </ul> <p>2年生・数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が多様であり、式の計算や連立方程式の習熟を図るとともに、関数や図形についての見方考え方を身に付けさせたいため。</li> </ul> <p>3年生・数学、選択数学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解の状況に差がひらいてくるため補足的な学習を行うとともに、伸びる力をより一層伸ばすようにするため。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「自ら学び、できた喜びを味わえるようにする学習指導」</p> <p>研究の見通し 基礎基本を定着させることにより、自ら問題に取り組む意欲を高め、問題を解決することができるようになっていくだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じたコース別学習（少人数学習）のあり方について</li> <li>・生徒の理解度（つまずき）の把握 個に応じた指導を行う</li> <li>・数学的見方考え方の指導</li> <li>・計算の基礎基本となる「正の数・負の数の計算」で、生徒が興味をもって取り組めるような題材の開発</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「自ら学び、できた喜びを味わえるようにする学習指導」</p> <p>研究の見通し 基礎基本の定着と個々の生徒の理解度に応じた指導により、自ら学ぼうとする意欲を高め、問題を解決する喜びを味わうことができるようになっていくだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じたコース別学習（少人数学習）のあり方について</li> <li>・生徒のつまずきやすい単元で、理解しやすい教材を開発</li> <li>・数学的な見方考え方を深める学習展開と指導</li> <li>・生徒の理解度の向上の把握</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制

15年度の研究体制	<p>重点研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 豊かな体験活動...総合的な学習の時間</li> <li>— 教育課程...美術科の授業研究</li> <li>— 学力向上...数学教科会を中心に研究を進める</li> </ul>
-----------	--

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

計算の基礎となる正の数・負の数の加法・減法が定着してきている。そのため、式の計算、方程式の解き方、平方根の和と差の計算などで伸びが見られる。  
・正の数・負の数の加法・減法の定着の状況(同一問題による1学期、2学期の比較)

1年生(基礎コース)平均点 89.2点 95.8点

3年生(基礎コース)平均点 91.7点 97.2点

進んで問題に取り組み、自分の力で問題を解こうとする意欲の高まりが見られる。

3年生(発展コース)二次方程式137問(計算・文章題)を解き終える など  
簡潔、明瞭、的確という観点で、問題解決の方法を検討しようとするようになった。

2年生...「三角形の内角の和は180 を使うより、外角はその隣にない2つの内角の和に等しいという関係を使う方が簡単に求められる。」など

選択数学での補充的な学習により基礎的な力が定着してきている。

3年選択数学(基礎コース) 4月テスト...学年平均 -3.5点

11月テスト...学年平均 ±0点

3年選択数学(発展コース) 4月テスト...学年平均 +2.5点

11月テスト...学年平均 +6.6点

### 2. 今後の課題

基礎的な計算については、コース別の学習集団で余り大きな差は見られない(正の数・負の数の加法と減法 (3年)基礎コース97.2点、発展コース98.8点)が、学力テストを行うと40点余りの差が出てしまっている。基礎コースにおいて、表現処理の面だけではなく、知識理解、数学的見方考え方の力をつけるようにするためにどのように学習指導を行えばよいかが課題である。

本校の生徒は、問題の解法について自分の考えをもっていてもそれを表出しようとするのが少ない傾向にある。よりよい考え方に高めていくためにも自己表現する力を育てるようにしていきたい。これは、1つの教科だけでなく学校全体として取り組みたいことである。

### 学力把握のための学校としての取組

学力の定着状況の把握のための標準検査等を行っていない。  
長野県の学力実態調査の問題や文部科学省の教育課程実施状況調査等の問題を取り入れた調査問題を校内で作成し、学習内容の理解や定着の状況を捉えるようにしている。また、同一問題による検査を間をおいて実施し、定着状況を確認するようにしている。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催... \*本校独自の研究発表会は開催していない。  
・竜ヶ崎市教務主任研修視察で来校の際、本校の取組について説明(7月30日)  
・諏訪算数数学研究会の夏期研修会で題材開発について説明(8月4日)  
研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等...本年度は計画していない。  
・県教委作成の中間報告書(全小中学校配布)で取り組みを報告する。

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4~6学級  
 7~9学級  10~12学級  
 13~15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無